

雨水浸透実験施設について

本施設は、雨水浸透施設において、影響要因（流入水質や堆積状況、通水時間などの条件の違い）により浸透能力がどのように変化するかを明らかにするための実験施設である。

○背景・目的

- ・ 気候変動による降雨量の増加への対応には従来の排除施設に加えて流出を抑制する浸透施設の役割が重要
- ・ 雨水浸透施設は浸透能力が経年的に変化するため、雨水管理計画への位置付けが進んでいない



- ・ 雨水浸透実験施設を設置し、実験により雨水浸透施設における浸透能力の経年的な変化要因や変化量を把握し、経年的な変化を踏まえた浸透能力の評価方法や浸透能力維持のための効果的な維持管理方法の確立を目指す

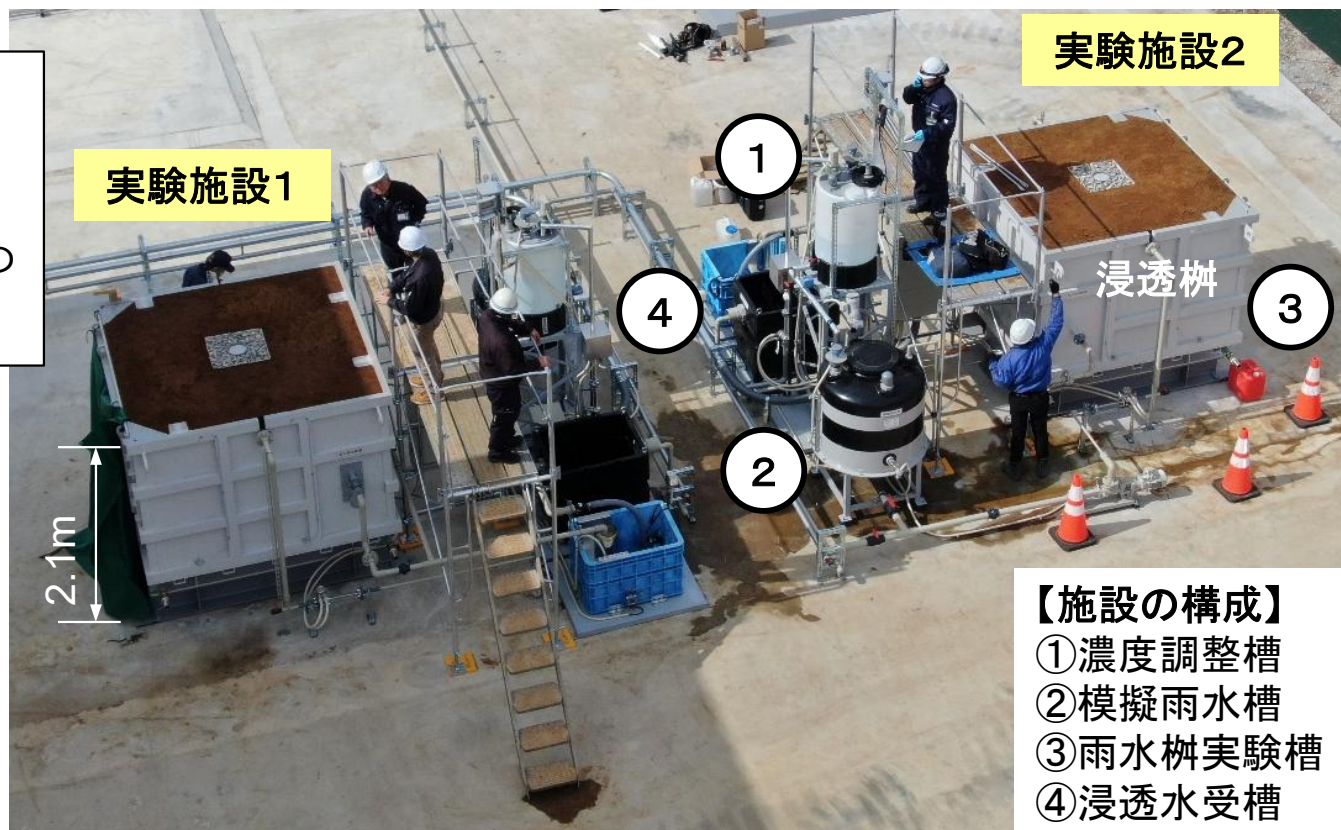
〔スケジュール〕

R7 実験装置製作・設置

実験条件設定

R8～10（想定）実験、成果とりまとめ

R11（想定）技術資料作成



実験施設2

実験施設1

浸透樹

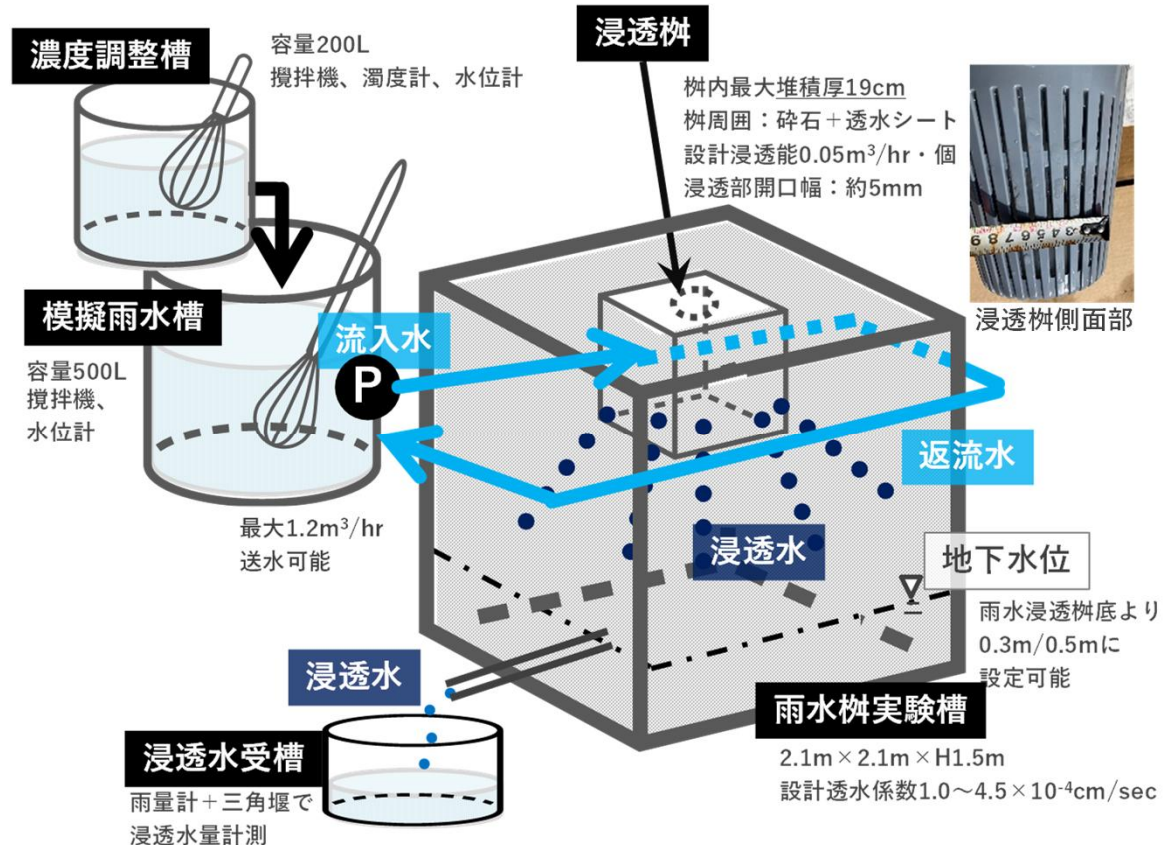
【施設の構成】

- ①濃度調整槽
- ②模擬雨水槽
- ③雨水樹実験槽
- ④浸透水受槽

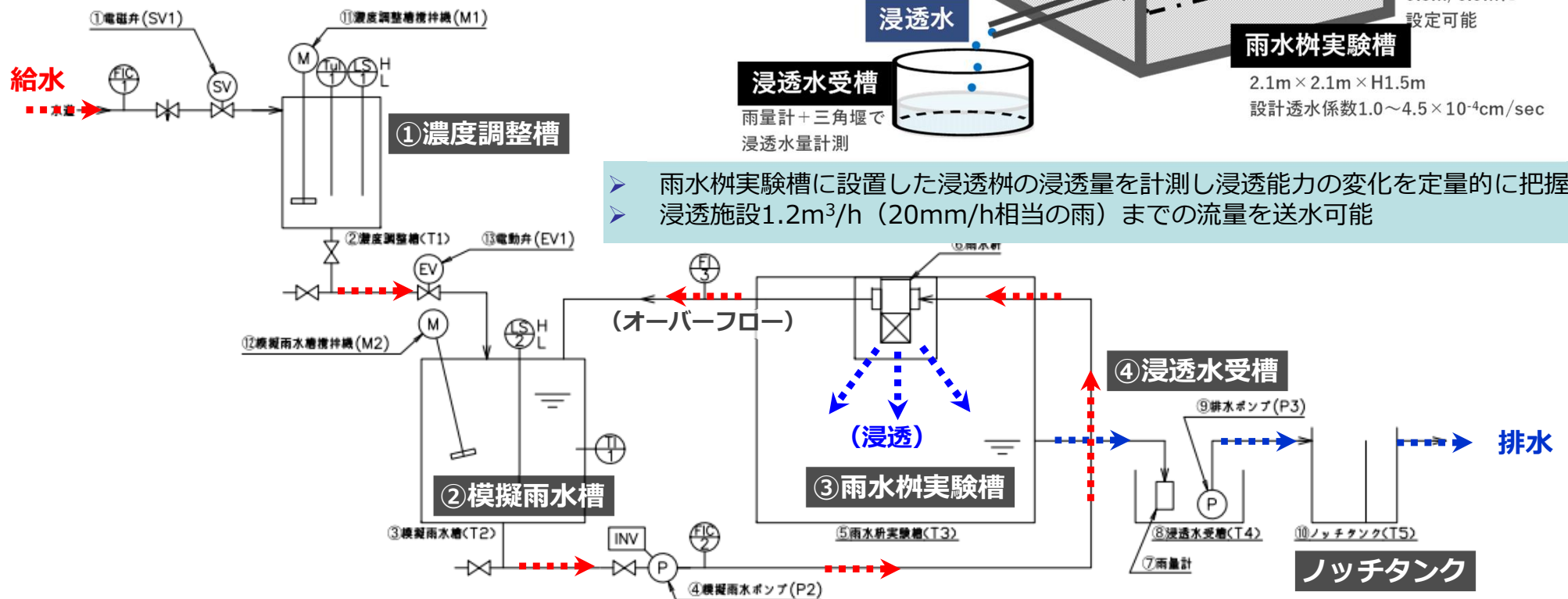
雨水浸透実験施設の構成

【施設の構成】

- ①濃度調整槽
: 実験条件の水質に調整後、模擬雨水槽へ送水
- ②模擬雨水槽
: 実験条件の水量を雨水枴実験槽へ送水
- ③雨水枴実験槽
: 土層内に設置した浸透枴により浸透状況を再現
- ④浸透水受槽
: 雨水枴実験槽からの浸透水を計測後排水



●フロー図



- 雨水枴実験槽に設置した浸透枴の浸透量を計測し浸透能力の変化を定量的に把握
- 浸透施設 $1.2 \text{m}^3/\text{h}$ (20mm/h 相当の雨) までの流量を送水可能

雨水浸透実験について

○実験条件の設定（R7：終了）

- ・自治体が管理している既設の雨水浸透施設を調査し、施設内の**堆積物の種類や量等を確認**
- ・合わせて施設管理者へのヒアリング等により、**施設の設置年や清掃の有無・頻度等を確認**



雨水浸透柵外観
(A自治体)



雨水浸透柵内部
(A自治体)

○雨水浸透実験の実施（R8～）

- 調査結果より以下の項目を実験条件として設定。
- 実験条件を変化させて実験を実施し、浸透能力に与える影響を把握する。
 - ①堆積物の種類（土砂、落葉）
 - ②堆積物の量
 - ③流入水質（土砂）
 - ④通水量
 - ⑤通水時間
- 実験の成果は「雨水管理総合計画策定ガイドライン（案）」等への反映を想定。